高松市立下笠居小学校 学校だより　令和５年度

下小だより 3月号

※ 学校の様子は、ブログでご覧ください。(http://blog.edu-tens.net/e-simoka/)　下笠居小

春の訪れを感じながら…

立春が過ぎ、少しずつ春の訪れも感じられ、梅の開花のたよりも各地から聞こえてくるようになりました。平安時代に活躍した菅原道真は梅をこよなく愛し、大宰府に左遷されたときに「東風吹かばにほひおこせよ　梅の花　主なしとて　春を忘るな」という歌を詠んでいます。道真のように梅に思いを寄せて一首つくることはできませんが、淡いピンクの花が開いた北庭の梅の木に、春が近づいていることを実感しています。「梅は咲いたか、桜はまだかいな」と、梅の次には桜を待つ、古から続く季節を感じとる風情を大切にして、春の訪れを待ちたいと思います。

3月は、様々な生き物が新たな息吹を感じて活動を始め、花開く春がやってくる時期です。私たちにとっても、新たな目標に向けて旅立つ時期でもあります。一年間、四季の移ろいの中で成長をした子ども達には、春の新たな息吹を胸に抱いて、それぞれ一つ上のステージへとステップアップしてほしいと思います。今年は、43名の6年生が卒業を迎え、それぞれの進学先に向かって羽ばたいていきます。別れは寂しいことでもありますが、次のステップに向かう旅立ちの機会であり、これまでと違う新しい人たちと知り合う機会でもあります。それぞれの新しい場所で、自分をさらに磨き上げ、成長していって欲しいと思います。地域の皆様には、今後も様々な場面で、地域で育つ卒業生を見守っていただくとともに、温かい言葉を掛けていただければ幸いです。

最後になりましたが、間もなく令和5年度が終わります。保護者の皆様・地域の皆様におかれましては、今年度も本校の教育活動に多大なる御理解、御協力をいただき、ありがとうございました。来年度も、下っ子達の健やかな成長のための教育活動を、さらに進めていきたいと考えております。引き続き御支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

第3回学校運営協議会をして…

第3回学校運営協議会を、1月31日(水)に下笠居中学校で開催しました。前期(7月)の学校評価を受けて、2学期に重点的に取り組んだ図書活動のことや、後期(12月)に行った学校評価の結果を中心に、来年度の構想も含めて説明しました。委員の方からは、

- **ICTの活用が進み、書くことが減り、漢字を読めない、書けないことが多くなっている。子どものうちは、意図的に書かせる場が必要ではないか。**
- **SNSに地域の行事を載せることもあると思うが、内容や画像についてよく吟味する必要があるのではないか。**
- **防災について、地域でも協議を行っているので、学校も協力をお願いしたい。**

といった意見が出されました。(小学校に関係するもののみ)

ICTの活用が進みトラブルも懸念されますので、情報モラル教育にも力を入れてまいります。

問題解決能力が高まるように…

【理科専科　山田　恭奨】

理科という科目には、**問題を見出し、仮説を立て、実験で証明する**という特性があります。現代の人類が豊かに暮らせているのは、過去の人々が想像力を働かせ、様々な物を作り出してくれた恩恵だと言えます。この力は、私たちも日常生活の中で幅広く活かすことができます。

例えば、スポーツで課題に直面したときや、ゲームで中々クリアできない時、私たちは、こうすれば解決できるのではないかという仮説を立て、実践します。たとえ失敗しても、新たな解決方法を考え模索します。近年では、「カーボンニュートラル」の実現に向け、多くの人々が模索しています。

このように、理科を学ぶことで、**問題解決能力**が高まることが期待されています。これからの予測不可能と言われる時代に、**自分で課題を見付け解決していこうとする力＝問題解決能力**が高まるような授業を目指していきたいと思います。